

こどもまんなかフォーラム（第2回）

1. 日時 令和4年10月28日(金)17:50～19:20
2. 場所 中央合同庁舎8号館5階共用A会議室
3. 出席者

【参加者】

高校生5名、大学生・高等専門学校生2名、社会人(20代)2名、
※内閣府「ユース政策モニター」から公募

【大 人】

小倉 将信	こども政策担当大臣
和田 義明	内閣府副大臣
本田 顕子	厚生労働大臣政務官
伊藤 孝江	文部科学大臣政務官
渡辺 由美子	内閣官房こども家庭庁設立準備室長
西崎 萌	内閣官房こども家庭庁設立準備室員

※ファシリテーター

4. 概要

○渡辺室長（由美子さん） 皆さん、改めましてこんばんは。今日は遅い時間にもかかわらず、また、遠いところからたくさん来ていただいて、ありがとうございます。

それでは、これから「こどもまんなかフォーラム」を始めたいと思います。

私は、こども家庭庁という皆さんのための役所が来年4月にできますが、その準備をする準備室の室長をしております渡辺由美子と申します。どうぞよろしくお願いします。

まず、最初に、小倉大臣から御挨拶をお願いします。

○小倉大臣（まあくん） 皆さん、こんばんは。御紹介をいただきましたこども政策の担当大臣を務めております小倉将信と申します。渡辺さんと一緒に来年4月のこども家庭庁の準備をさせてもらっております。今日は大人が何名か来ておりますけれども、みんな一緒に来年の4月のこども家庭庁の設立に向けて、こども・若者の皆さん方の支援をさらに充実をさせるべく日々取り組んでいる、そんな仲間たちで今日は皆さんと意見交換をさせていただきます。

まず、皆さんはこどもというと、どれぐらいの年齢の人たちを思い浮かべま

すか。

たまちゃん、どうでしょうか。

○たまちゃん 大体15歳以下ぐらい。

○小倉大臣（まあくん） 15歳以下ぐらいだよ。小学生とか中学生とか、高校生、大学生になると、ちょっとこどもというよりも大人かなと思う人がいるかもしれないけれども、実はこども基本法というこども家庭庁と一緒にできたすばらしい法律がありまして、こども基本法の中に、こども基本法の対象たるこどもというのは心身の発達の過程にある者と書いてあるのです。心身の発達の過程にある者ですから、例えば15歳になったらこどもではないとか、18歳になって成人を迎えたらこどもではないではなくて、それぞれの発達の過程にある人たちをみんなで支えようというのがこども基本法の理念なのです。

ちょっと回りくどい言い方をしてしまったのですが、そういう意味では我々が考えているこどもというのは、誤解されやすいのですけれども、若者も含まれます。まさに高校生とか大学生とか、20代の皆さん、我々がしっかりと支えたいと思っている、そういった人たちなのです。

それと同時に、こども家庭庁の大きな役割として、これまでになかったぐらい大胆にこどもたちや若者たちの意見を国や自治体の政策に反映しようと思っております。これまでこどもや若者といった人たちは、どちらかというと、大人が決めたルールに従わなければいけない、自分たちのことの政策なのに、それを決めるのが大人たちという印象を持っている人たちが多かったと思います。そうではなくて、こどもや若者を対象にしているわけですから、こどもや若者自身が政策決定に関与して決めてもらう、自分たちのためになるような政策をみんなでつくり上げていくというのが、こども家庭庁の大きな使命なのです。

そういう意味では、今日2回目を迎えましたこどもまんなかフォーラム、1回目は小中学生から意見を聞きました。我々は聞き役なのです。通常は大人が出しゃばっていろいろ意見を言うのですけれども、このこどもまんなかフォーラムは皆さん方がどんどん意見を言ってください。我々は聞き役です。皆さん方の意見を来年成立するこども大綱という政府の大きな方針の中にしっかりと反映させていきたいと思っておりますので、今日も短い時間ですけれども、一応私はニックネームをまあくんという小学校以来の呼び名でありますけれども、遠慮なく皆さんの意見をお聞かせいただけるとありがたいなと思っております。どうぞよろしくお願いします。

○渡辺室長（由美子さん） ありがとうございます。

報道関係の方は、ここで御退席をお願いします。

（報道関係者退室）

○渡辺室長（由美子さん） それでは、ここからは西崎さんにバトンタッチし

たいと思います。よろしくお願いします。

○西崎ファシリ（めぐちゃん） 皆さん、こんばんは。こども家庭庁設立準備室のめぐちゃんです。今日はどうぞよろしくお願いします。

先ほどまあくんから御紹介があったとおり、今日はこども家庭庁に対して期待することとか、皆さん、高校生やこども・若者を代表して、ぜひ政府に取り組んでほしいことについて、お話をたくさん聞かせていただけたらなと思っています。

大人側はまあくんのほかに、こども政策担当のわだっちとはなちゃん、そして、文部科学省からたかえさん、厚生労働省からあちゃんが参加しています。

では、最初に1人2分程度で、皆さんがここで話したいなと思って来てくれた想いを、ぜひお話しいただけたらなと思います。

では、最初に話してくださる方。

○たまちゃん たまちゃんです。今日はよろしくお願いします。

今回、私がこのフォーラムでお話しさせていただきたいことは、主に過疎地と都市部における格差、特に教育の格差についてです。

私は小学校まで中国地方山間部の過疎地域、そして、中学校から進学して、現在は瀬戸内海の離島の過疎地域で生活しています。その経験を基に、今日はお話をさせていただきたいと思います。

その前に、まずは過疎地域の現状について、私が知っている範囲にはなりますが、少しお話しさせてください。過疎地域ではこどもの人数が少ないこともあり、こどもが楽しんだり学んだりできるような文化施設や体験型施設、例えば科学に触れ合えるような施設だったり、児童館、美術館、博物館などがとても少ないです。そのため、そういった施設で開催されるイベント、こども向け事業などもとても少ないという状況があります。学校で募集・案内される体験型学習イベントなども大抵の開催場所は都市部だったり、市の中心部だったりします。私も昨年度イベントに夏休み中に参加させていただいたのですが、それに参加するために片道2時間もかけて移動する必要がありました。

中高生なら過疎地域で本数が限られていたにしてもバスや電車などを探して行くことはできるかもしれませんが、しかし、もっと若い小学生となるときつと不安なところも多いと思いますし、さらに遠く離れたところに移動するとなると、親も不安だと思います。

また、先ほど中高生でも時間を探して行けるとお話しさせていただいたのですが、すけれども、でも、場所によっては車で最寄り駅から数十分かかるところに住んでいる子たちもいます。さらに保護者の方に送迎をしてもらえなかった場合は、そういったところにも自転車で行く必要があり、でも、自転車で行くとなると、途中で山道を通る必要もあります。

今日は私の地元の写真を少し用意させていただいたので、そちらを見てみてください。これが山道なのですけれども、見ても分かるとおり、草が茂っていたり、木が生い茂っていたりします。というのも、地方では過疎化が進んでいたり、少子高齢化が進んでいたりして、こういった山を管理する人はどんどん減っていつている一方で、それに伴って、こういった道を整備するところまで手が行き届いていないという現状があります。これが過疎地の現状です。親の送迎がないと参加することが難しいという現状があります。

先ほど紹介したイベントに参加するか否か、施設を利用するか否かというところは、個人の自主性に任せられる部分もあります。しかし、そうだとすると、地域に関係なく、より平等に学びに参加できる機会が与えられるべきだと思います。それは児童の権利に関する条約、こどもの権利条約である育つ権利や参加する権利に間接的に関わってくると思います。

将来、特に過疎地域などで育ってきた子どもたちが成長したときに、地元の魅力を感じるか否かにも、そういった問題がつながってくるのではないのでしょうか。正直、現在のままだと、もっと過疎化や少子高齢化といった問題が深刻化していくのではないかと思います。このまま田舎地方に住んでいても大丈夫なのだろうか、もっとたくさんの施設を使いたいだとか、交通が不便など、親や子どもたちが感じることや不安になるところがあると思います。なおさら子どもたちが進学して、都市部の大学に進学したり就職したりすると、こういった不安は子どもたちが地方へ戻りたいと思う気持ちを軽減させかねないとは考えています。また、その子どもたちが成長し、大人になったときに、地元に戻って子育てをしたいかと思うか否かというところにもつながってくるのではないのでしょうか。

この問題を解決するには、そういった不安を払拭して、さらにもっと田舎、地方、そして、それぞれの子どもたちの出身地に愛着心を育むような政策が重要になってくるのではないかと私は思います。

長くなりましたが、そこで、現在、私が考えていることを2つほど提案させていただきます。

1つ目は、交通網の充実です。といってもインフラだったり道路を整備するというのは経済的なところも関わってくるので、いきなりは難しいところがあると思います。ですが、地元の人たちの助けを借りて、こどもタクシーを使ったりして、もっと気軽に交通手段を利用できるような方法を考えたりすれば、子どもたちもほかの地域の人たちも、もっと交通手段を利用しやすくなるのではないのでしょうか。

2つ目は、子どもたちの教育についてです。今の教育では知識が重視されるところが多いと思います。その一方で、子どもたちが課題について知らない部

分も多くあると思います。SDGsの達成のためにも、幼い頃から課題解決型、探求型の学習をしていく必要があると思います。それを行うことで、新たに初めて課題を知ったり、深刻さについて理解することができるのではないのでしょうか。

長くなりましたが、地域のこどもたちの将来のために、そして、多くのこどもたちをはじめとする人々が平等に様々なことに参加できるようになるためにも、来年4月に新たに設立されるこども家庭庁さんには、先ほどお話ししたようなことを取り組んでいただけたらと思います。ありがとうございました。

○西崎ファシリ（めぐちゃん） たまちゃん、ありがとうございました。

写真を見せてもらったので、皆さんの頭の中に、話と一緒に状況が思い浮かんだのではないかなと思います。

地域の過疎化とか、育つ権利、参加する権利と言ってくれましたけれども、遊ぶ権利とかもきっと含まれているのだろうと、たまちゃんのお話を聞いていて思いました。

地方から今日来てくれている方もいるので、ぜひこの点について、「私も」ということがあれば、ぜひ教えてもらいたいなと思います。

では、続いて、2人目に話したいなという方はいますか。

ういさん、お願いします。

○ういさん 私も静岡出身で、都会との教育格差みたいなものを感じたりするので、その通りだなと思いました。

私が今回話したいテーマは、子育てとか、こどもが学校で育つ上で、もうちょっとスクールカウンセラーを活用してほしいというのと、こどもの虐待とか、そういう問題についてです。こどものケアのためには、まず、育てる側の親のケアをもっとしっかりしてほしいと思っていて、児童相談所だったら施設の職員が少ないとか、長く続けられないとか、たくさんいろいろな問題があると思うのですけれども、そこに対して、育成にももっと力を入れてほしいし、そのためには、金銭的な話をすると賃金を上げて、たくさん大変なことがあると思うのですけれども、そういうところにもっと力を入れていただいて、経済的にも支援する人のケアをしっかりしてほしいと思っています。

スクールカウンセラーについても、学校によってスクールカウンセラーが活用されているかは全然違うと思っていて、例えば東京の心理学とか虐待とか、そういう話が学問的に進んでいるところは活用をしっかりしていると思うのです。

私は静岡出身で小学校とか中学校のときに、あまりスクールカウンセラーは馴染みがなかったです。事前の会議のときにもお話が出たのですけれども、こういうコミュニティを使ったら相談できやすいよとか、地域ごとの取組がある

と思うのですけれども、そういうものを知るためには、学校に行っている子たちだったら、学校のスクールカウンセラーとか、学校の担任が紹介するみたいな一つの窓口として役に立ってほしいと思っていて、そのためには、スクールカウンセラーをもっと活用するというか、専門的な相談もできるし、専門的な相談以外にもこういうコミュニティがあるよとか、そういうのももっと活用されたらいいなと思っています。

子育てについては、私が子育てについて、例えば今から妊娠してこどもを産むとなったときに、あまり政策とか対策というものを知らなくて、調べてみたらたくさんあると思うのですけれども、それが分からないのです。どこに相談すればいいとか、例えば虐待の相談をしたいときには189みたいなものが今はあると思うのですけれども、相談、虐待に限らず一個一個のニーズに合わせて相談といったときにどこか分からないので、一つの窓口みたいなものがあつたらいいなと思っています。

以上です。

○西崎ファシリ（めぐちゃん）　ありがとうございます。

スクールカウンセラーとか、児童相談所とか、今ちょうど「こども」と「子育てする人」の間にいる20代になる年齢の方の、今後どうしたらいいのかなというところに関してお話しただけたかなと思います。

次に、はるさん、お願いします。

○はるさん　自分が今思っていることというのが、知識を知恵として使う勉強というのですか、その方法というのを学びたいと思っています。学んでいけるシステムだったかなと思っています。

具体的になのですけれども、例えばさっきのお話であつた相談する、例えば電話番号を知っていたとしても、電話をかけて済むならいいのですけれども、そこから何かほかの申請だったり、税金とかも何々税がありますよというのは高校中学で学ぶと思うのですけれども、それをどうやって申請するのか、何がどう使われるのか、ほかに裁判といたら、こうなったら上告でみたいな、いろいろな知識は多分みんな勉強すれば身につくと思うのですけれども、それを実際の社会生活に生かそうと思ったら、その知識を知恵としてうまく使えていないなと自分が思うところがあつて、何々を申請すればいい、でも、その申請の仕方が分からないみたいな、自分でもうまく言葉が出ないのですけれども、その活用の仕方をもっと学べたらなと思いました。

自分の中学のときに模擬裁判みたいなのがあつて、みんな楽しく職種に合わせてやることができたのですけれども、知識だけで、言葉だけで覚えるのではなくて、実際に経験して、選挙とかもこう行くのだよみたいな、投票するのだよみたいなのはあるのですけれども、百聞は一見にしかずと言いますし、実際

にやってみないと分からないというのもあって、実際に体験できるような教育をもっと増やしていけたらなと思います。

○西崎ファシリ（めぐちゃん）　ありがとうございます。

まだありますか。

○はるさん　後を取っておきます。

○西崎ファシリ（めぐちゃん）　ありがとうございました。

今のはるさんのお話は、先ほどのういさんのお話ともすごくつながるのではないかなと思いました。どんな制度があるか分からないとか、知識として知っていても、それを実生活の中でどうやって取り込んでいったらいいのだろうということを経験で教えていただきました。

それでは、たけしさんとまどかさんにお話を伺って、そこで1回、自由に意見交換するところに行きたいと思います。

○たけしさん　たけしと申します。本日はお時間をいただき、ありがとうございます。

私からは、ちょっと皆さんとは違って若い世代、特に社会人の貧困という視点で少しお話をさせていただきたいと思います。

私もそうなのですが、大学に行く際は奨学金を借りて大学へ行きました。社会人になって、毎月奨学金の支払いがある中、就職をして給料はあるのですが、手取りがなかなか少ないという現状もあり、なかなか社会人になっても将来結婚ということを経験で考えられないという方もいらっしゃると思います。それから、実際に結婚しても子育てをどうしよう、お金の問題で諦めてしまうみたいな考えになってしまう方もいらっしゃると思います。

こういった現状がある中、前にテレビで老後2000万問題みたいなものを取り上げられていたと思うのですが、若い方を見て、現状どころか将来のお金に対しても悲観的に思ってしまう方が結構多いと思います。例えばほかにも最近、若者の車離れが進んでいるという話を私も職場とかで聞いたりするのですが、実際にこれは事実だと思いついて、お金の問題からなかなか、そもそも車なんて持てのほかにみたいな方もいらっしゃると思います。

こういった若者の貧困みたいなところは、先ほど申したように結婚とかに関わってきたり、少子高齢化が進む中で、そういったところとつながってきたりもしますので、少子高齢化というテーマを考えると、若者の貧困というところも目を向けていただくと嬉しいなと思います。

もう1点ございまして、今、世の中の的には比較的就職の市場は売り手市場と言われていたりするのです。とはいえ、実際に正規の雇用になれなかった方だったり、あとは就職できたのですが、いわゆるブラック企業みたいなところに入ってしまった。でも、今、コロナで世の中の経済状況とかも見て、な

なかなか転職に踏み切れないみたいな方もいらっしゃると思います。

今、例えばeラーニングとかでリカレント教育もあつたりします。特に転職とかを考えている方にとっては、リカレント教育をまず受けることによってキャリアの選択肢が増えたり、それから、転職を考えていなくても、結果的に給料アップにつながったりということもあると思います。

私もそうですけども、若い方でもそういったリカレント教育に興味を持っている方は結構いらっしゃると思います。興味はあるのですけれども、実際に働いている身としては、研修とは違って、長時間労働とかがある中でなかなか学べないと思っている方も多いと思います。私もそうですけども、大学を卒業してもまだまだ学びたいと考えている方もいらっしゃいますので、こういったリカレント教育、働きながらも学べる環境の整備というのは教育格差の是正とか、あとは先ほど言ったようにキャリアの選択肢が広がるといったところといったところからも、若者の貧困の解決の一つになり得るのではないかなと考えておりますので、ここの視点もぜひ持っていただけたら嬉しいなと思います。

私からは以上です。

○西崎ファシリ（めぐちゃん）　ありがとうございます。

これまでとガラッと変わって、若者のための政策ということで、たけしさんから御意見をいただきました。

そうしたら、まどかさん、お願いします。

○まどかさん　私がこども家庭庁に解決してほしいことは、配付資料を用意してもらったので、そちらを見ていただけたらと思います。

○西崎ファシリ（めぐちゃん）　このA4の一枚で「こども家庭庁に解決してほしいこと」という資料が皆さんのお手元に入っていると思います。

○まどかさん　私は、今の状況を2つの視点で捉えました。

1つ目は、児童相談所の環境が十分ではないことです。最近、こどもや保護者の対応が追い付いていないなど、相談したけれども、解決されていない状況だという話を聞きました。もう一つが、いろいろな経験をした人が、いじめ、虐待、ヤングケアラーなど、逃げ場を求めて集まっている場所があるということです。そこでは犯罪が起きてしまったり、巻き込まれてしまう可能性があるのです。今、一番危ないなと思っていることです。

そこで、私は今の状況を踏まえ、解決策を何個か考えました。

まず、児童相談所のほうについては、人数の増員はしたほうがいいということと、相談しやすい環境にするということです。相談しやすい環境にするというのは、電話をすとか、カウンセラーに行くというのはなかなか勇気が要ることなので、まずは相談のしやすい場所を提供することが一番の解決に資する

のではないかと思います。

次に、いろいろな経験をした人の解決策は、遊び場プラス心の拠り所をつくるということです。これはこどもを中心とした地域の総合施設をつくるということです。そこにはいろいろなつらい経験をしてきた人が集まれる場所で、大人がこどもに対して優しい目で見えてくれる場所、大人もこどもも困っていること、考えていることを相談できる場所、こどもたちの意見が国に届くということです。こういう施設をつくることで、周りの人の通報のしやすさができると思います。

これは児童相談所のところの解決策と同じで、相談しやすい環境になるということです。なぜ通報しやすくなるのかということでは、虐待をされている人は自分が虐待をされていると思わないケースがあるということです。周り、自分が気づく環境づくりを国がすれば、幼い頃から受けていたような傷も自分で気づけるようになると思うからです。

これらの意見を踏まえ、私が思い描く将来は、こどもが大人を信用できる社会にしたいということです。では、こどもが大人を信用できる社会とはということになると思うのですけれども、こどもの声が実際に届けられることが、まず、大人を信用できる一歩だと思います。次に、信用するためには悪循環を防ぐということです。悪循環というのは虐待をされてきた人たちが、こどもにもまたするという連鎖を防ぐためにも、こういう活動をしたほうがいいと思います。

最後に、別の道、別の正解があるということです。自分がこういう経験をしたから幸せになれないと思うのではなくて、相談しやすい環境にし、自分の新しい正解、自分の幸せになれる道を選んでほしいと思いました。

以上です。

○西崎ファシリ（めぐちゃん）　ありがとうございます。

こどもが大人を信用できる社会、キャッチフレーズのようなものをいただきました。

今、5人からお話を伺って、例えば児童相談所とかという形で、もっと相談しやすい環境がいいのではないかとか、あとは相談するとか、どういう制度がある、誰かにヘルプを求める、この社会の中にあることを活用する、知識としてだけではなくて、自分が実生活でどうやって使っていくかということとか、皆さんの話の中に入っていたのではないかなと思います。

あと、たまちゃんが話してくれた過疎地域の問題は、今日、来ている皆さんの中にも思い当たることがもしあれば、ぜひお話ししてもらいたいなと思います。

あと、若者世代というので、高校生の5人の皆さんは、ちょっとだけ将来に

意識を向けてもらって、若者のこととか、自分が大学生、そして、その先、就職するときにどんなことがあったらいいのだろうかとか、今のたけしさんの話を聞いてこんなことを思ったとか、誰からでもいいのですけれども、何か今の5人の話を聞いて思ったこととか、共有していただける方はいますか。

るねさん、ありがとうございます。

○るねさん たけしさんの若者の貧困化ということに関してです。私は今、高校生の身なのですが、将来の選択肢を考えたときに、まず、私を含む周りの人が考えるのが、安定した職業に就ける進路は何だろうというところから考え始めます。やりたいということというのはそれぞれあると思うのですが、コロナの情勢とか、周りの大人とかの話を聞いていると、どうしてもやりたいことより将来自分が安定して暮らせるというところを優先してしまいます。

また、進路を例えば大学に進みたいとなったときに、例えば奨学金であったりとかの制度もあると思うのですが、その制度は収入の基準が割と厳しくなっていて、家庭によっては、収入はオーバーしているけれども、上や下に兄弟が多いから自分は親から国立大学に行きなさいなどと言われた、だから、進路が自分だと決められないという家庭が割と多く感じます。そのため、若者の貧困化というのは社会人だけでなく、高校生の進路選択などにもすごく影響を与えているように感じるので、こどもが自分たちのやりたいこととか、行きたい道を選べるというスタートラインに立てるように、その対策が欲しいなと思っています。

以上です。

○西崎ファシリ（めぐちゃん） ありがとうございます。

やりたいことをやれない、もっと安定とか、もしかしてお金があったら別な道に行けるかもしれないけれども、将来が不安だとか、それがあると、なかなか自分の思った理想と現実が異なるということですかね。

ほかの皆さん、いかがですか。

では、なかさん、お願いします。

○なかさん 今、お話のあった奨学金とか、お金で将来のこと、そういうお話をされたと思うのですが、お金の問題で自分が将来こうなりたい、こういうことがしたいというのを阻まれるのはすごいもったいないし、そこはお金の問題で解決するというのは今一番重要なのかなと思っていて、少子化対策の白書とかも見たら、家族関係の支出とか、対GDP比でフランスは2.85%、イギリスは3.24%、日本は1.73%と、お金を出す量が少ないと感じるところもあります。

では、お金をいっぱい出せば解決するかという話ではないと思うのですけれど

ども、今、お金を出す、増やすという話は進んでいるのかなとは思いますが、けれども、どこにそのお金を出していくかというのはしっかり考えて、最初におっしゃったように、そのお金をどこに配分するかというのもこどもの意見を聞きながら進めていってほしいなと思いました。

○西崎ファシリ（めぐちゃん）　ありがとうございます。

ちなみに、お金を配分するのにこどもの意見を聞いてほしいと、なかさんから提案がありましたけれども、小さいときから今までを振り返って、もしどんなところにお金があったら、もっとこういうことができたとか、逆に、こういう支援があったからこういうやりたいことができたのだとか、何かそういう経験はありますか。

○つつみさん　私自身、北方領土に関する活動をさせてもらっていて、北方領土まで現地の視察に参加させていただいたり、元島民の方のお話を聞く機会があって、それで、自分自身で行ってみたいと分からない北方領土についての知識とか、そういうことを得ることができたので、そういう点で、国のほうからお金の援助いただいて、自分もそういうところに行ったので、教科書だけでは学べない北方領土の問題とか、どういう解決策があるのかとか、北方領土の周辺地域の魅力だったりを生で感じられたのは、そういう国のお金のおかげがあったからかなと思っています。

○西崎ファシリ（めぐちゃん）　ありがとうございます。

それは北方領土にもともと興味があって行ってみたいなという気持ちがあったのですか。

○つつみさん　そうです。

○西崎ファシリ（めぐちゃん）　では、ここに今日集まってくださっている方々のおかげで北方領土への気持ちがもっと高まった。ありがとうございます。

はるさん、お願いします。

○はるさん　自分は何かすごい個人的な話になってしまうのですが、高校受験をするときに、自分はもともと勉強が得意ではなくて、勉強をするという習慣がなかったのですが、自分が塾に行きたいと親に伝えたら、結構高い塾に行くことができて、目標とする高校に何とか合格することができたのです。それで、ある程度の自分の努力と周りの環境によって自分の考え方というのは、ここに行きたい、ここになら行けるみたいな考え方が結構変わってきてしまうことが多分あると思うのです。

なので、学生とかで、さっき話してくださったと思うのですが、高校から大学に進学するときに、お金の関係でやめてしまうとか、もっとレベルを下げて奨学金がもらえるみたいなのを選んでしまうと思うので、そこにもう少しお金があったら、もっと救われる人がいるのではないかなと思いました。

○西崎ファシリ（めぐちゃん）　ありがとうございます。

今までの話を聞いていて、せいこさんもいかがですか。

○せいこさん　さっきのたけしさんの若者の貧困とかという話を聞いていて、私は医療職なので比較的世間的には安定している職業だと思われているかなと思うのです。最近、私はコロナ関係の対応をする保健師をしているのですが、皆さん御存じのように去年から何度も大きな波があって、そのたびに心身を壊して休職していく先輩とかをたくさん見てきたので、明日は我が身だなと思っています。なので、若者の労働環境を変えていかないと、この少子化の問題とかは解決しないなと思っています。

あと、何人かの方が、高校生の方とかもおっしゃっていた支援につながる窓口があまり一般に周知されていないのではないかと思います話を聞いて、私も地方のそういう行政に関わる身として、そういう行政の窓口が分かりづらいと、本当に支援を求めている人がつながりにくいというのは本当にあるなと思うので、その周知の問題とかも解決しなくてはいけないところだなと思いました。

以上です。

○西崎ファシリ（めぐちゃん）　ありがとうございます。

つつみさん、さっき手を挙げて話したかったことを先に聞いてもいいですか。

○つつみさん　たまちゃんの話聞いて思ったことなのですが、中高と探究型学習というものをうちの学校ではやっておりまして、探究型学習というのは自分の興味のあることに関して様々なマッチングというか、同じことに興味を持っている人たちが集まって、グループをつくっていろいろなことについて探求していくのですが、頭がいいとか頭が悪いとかそういうのは関係なく、何か自分のアイデアを出していけるということはすごい大事なことだと思っています、頭がいいからという縛りで固定的な概念にとらわれてしまうと、物事に関して一つの視点でしか捉えられなくなるけれども、いろいろな人が集まっていくと様々な視点が生まれて、より社会問題とか、そういったことについての解決につながっていくようなものを見出せるきっかけになるので、探究型学習というのは、これから推進していくべきだと思います。

それと、ビッグイベントに参加しにくい環境というのがあると思うのですが、私も今、地方に住んでいますので、そういうビッグイベントには参加しづらい状況だったり、例えば大学受験においては、大手の予備校が設置されていなくて情報網がなくて、いろいろな大学受験の入試方式だったりというのがあると思うのですが、そういうことを知れないというか、知る機会がなくて、自分の行きたい大学とか、もっと興味のある分野があったのに、一つにとらわれてしまって、自分の将来の進路が狭まってしまうということもありますので、そういうところの整備が大事だと思います。

それと、たけしさんのおっしゃっている奨学金問題なのですけれども、私の実際の知り合いにも、いわゆる都内の私立大学に来ている人がおりまして、その人は奨学金を借りていて、大学を卒業した後、400万を自分で払わないといけなくて、でも、それを覚悟して自分は有名な私立大学に来ているというので、将来に関する漠然な不安というのはあると思うので、そういうのは解決していかないといけないなと思っています。

以上です。

○西崎ファシリ（めぐちゃん）　ありがとうございます。

今、将来に対する漠然とした不安というキーワードが1個出てきたかなと思います。そして、さっきの1個前、せいこさんが言ってくださった支援を求めている人たちに、どう支援を届けるのかとか、そもそも支援があるよということの情報を知れていないよというの、アクセスの格差があるというのもつつみさんから教えてもらって、例えば皆さんが今情報を得るときに、どんな方法だったら情報が得やすいと思いますかとか、支援があるけれども、つながれていないなと思う行政と、実際に、こちら側では分からないで困っているその間は、どうやって結んだらいいかなというので、こんなことがあったらいいなとかアイデアが、もし今パッと思いついた人がいればぜひ。

たけしさん、ありがとうございます。

○たけしさん　今、おっしゃったとおり、行政のやっている窓口というのは宣伝とかであれば、例えば行政の公式のSNSとかホームページとかを使って宣伝したりとかするとは思うのですけれども、自分が興味を持って調べないとそこにたどり着けなかったりするの、こうやって待っていたら来ないのです。でも、ふと悩んだときは、もう知っていたら、すぐに相談できると思うのです。ただ、そこで調べて、緊張しちゃうとか、いろいろあると思うので、何か事前に降ってくるような環境があるといいなと思います。

特に若い方であれば、学校で例えばいじめの相談をここにしてねとか、チラシとかはもらおうと思うのですけれども、チラシはまあいいやと思って、あまり読まなかったりすると思うのです。なので、例えば授業のどこかに組み込んでしまうとか、いじめとかがあったら、ここに電話すればいいよ、相談の仕方はこのように相談すればいいのだよと、例えば相談したいけれども、何と電話すればいいのか分からないとか考えてしまう若い方とかもいらっしゃると思うので、そこまで授業に無理やり組み込んで教えてあげるというのも一つの選択肢なのではないかなと感じております。

以上です。

○西崎ファシリ（めぐちゃん）　ありがとうございます。

実は今日、こども家庭庁のTwitterのアカウントができたのですけれども、た

だつくっただけというのを言われてドキドキしていました。使い方とか、どう相談していいか分からないときに、例えばこんなこと、どういう言葉でとか、何を言ったらいいのだよとか、具体的に教えてもらえると、ちょっと相談しやすくなるということですね。

まだまだ話がつきなさそうなのですけれども、前半に話していただいた5人に引き続いて、後半、4人にもお話を伺いたいなと思っています。

るねさん、お願いします。

○るねさん 私の意見としては、まどかさんやういさんが言っていたこととすごく似てくるのですけれども、国とか公的に設置されたこどもが安易に逃げ込める居場所が欲しいなと考えています。

一つとして、学校での大人によるセクハラやパワハラ問題がありまして、近年、このようなニュースの報道がすごく増えているのです。それでも実際に周りを見てみると、意外と見つかったり、なくなっていることはないと思うのです。その原因の一つとして、こどもが被害に遭っても自ら声を上げにくい環境がありまして、大人よりも立場も力の弱いこどもというのは、それに抵抗していくことがすごく難しいのと、周りからの同調圧力というものがあります。

例として、私の知り合いの先輩で、今、大学生で違う高校に通っていた方とお話しする機会が先日ありまして、その方はスポーツを学生時代にやっていたのですけれども、今思えばパワハラだったなというような行為、例えば大声で怒鳴られたり、教官室に呼ばれて体罰のようなことをされたりなど、今思えばパワハラと捉えられるようなことをされていたけれども、その先生もふだんの授業の場で見れば、別にすごく悪い先生ではなく、生徒から慕われている一面もあったり、部活内ではそれが当たり前としてあったから、それがおかしい環境だとも思わなかったし、自分だけそれが嫌で、逃げるとするのはすごく悪いことのように思えていたから誰にも相談ができなかったとおっしゃっていました。これはその方だけではなく、全国的に言えていない人が多いのではないかなと思っています。

もう一つとして、居場所として家に帰れないとか、先ほどまどかさんの意見の中にも、そういうので集まってしまうこどもがいるとおっしゃっていたのですけれども、近年増えているなと感じていて、例えば東京で夜の繁華街にこどもが集まっているというのが最近さらに顕著になってきていて、インフルエンサーなどがその内情を知りに行ってインタビューしている記事があって、それを私は見たのですけれども、そういう方々に意見を聞くと、例えばコロナとかで家に帰れない原因である親などが家にいる時間が増えて、居場所がなくなってしまったということと、そこに行くと、自分と同じような人が多いから気兼

ねなく話せることができて安心できるとおっしゃっていました。

それというのは、ふだんの生活の中では気兼ねなく話せる場所もないし、安心できるようなところがないのかなと私は感じていて、それは居場所だけではなくて、身近を見てみると、帰れなくて一緒のところに集まらなくても、カフェとかで遅くまで時間を過ごしてから家に帰るという学生も割と多かったです。

現状、こどもが頼れるものとしてカウンセラーという意見があったのですが、けれども、カウンセラーや身近な大人に伝えることと、学校で配られるチラシというの也有着て、そういう機関に電話をかけるということでした。

ただ、私としてはカウンセラーや信頼できる大人に伝えるというのは一番難しいことだと思っていて、それはカウンセラーにしても大人にしても割と身近な人なので、その人に伝えると、では、それはどこに伝わるのだろう、誰に伝わるのだろうというのはこどもは分からないので、伝えるのにはすごく不安があるのです。カウンセラーの活用という意見があったのですが、私も以前にカウンセラーを活用させていただいたことがあって、ただ、それは別の先生に言ってから、カウンセラーの先生は在駐ではないので、別の先生に伝えてからカウンセラーの先生を呼んでという感じだったので、ほかの先生に話が伝わってしまうというのと、授業中などに話をどうしてもしなくてはいけないので、周りに感づかれてしまうのがすごく嫌だなというのを感じていました。

学校で配られるチラシなどの紙に関しては、主に電話という手段が多いのです。でも、電話をするのに整った環境がそもそもないとなかなかしづらいもので、家に居場所がない人は電話が一番しづらいことなのです。外に行って電話をしようと思っても、電話をかけられる機器がないとか、電話の履歴が残ってしまうことが嫌だとか、そういうのがありまして、だから、電話はすごく難しい。

私の県で行っているのにLINEという手段があるのですが、これは言ってしまうと、どの手段も駄目になってしまうかもしれないのですが、LINEは匿名性がほとんどないような、自分の個人情報をSNSの中で一番細かく登録している気がするのです。そうすると、匿名性がないというのは、意見を伝える、ちょっと相談したいなというのに怖いなと思っていて、そのため、こども家庭庁を通して、同じ悩みを抱えているような人が集まれる居場所があったり、気兼ねなく話せる居場所をつくってほしいなと考えています。

長くなりましたが、私の意見は以上です。

○西崎ファシリ（めぐちゃん）　ありがとうございます。

こどもが逃げ込める場所ということと、あと、どうしてほかの相談だと、なかなか難しさを感じるのかということも、例えばカウンセラー、身近な大人、相

談機関、LINEとか、いろいろあったのですけれども、それぞれが使いにくい理由というの、るねさんの言葉で教えていただきました。

次に、なかさん、お願いします。

○なかさん 僕はこのフォーラムに参加させてもらうという話が決まって、いろいろやり取りをさせてもらって、こども家庭庁に期待することとか、学校のこととかで不満とかのいろいろな意見があったらここで話してほしいと最初にお話をいただいたのですけれども、僕はこども家庭庁には期待しなくて、期待するしかないというところもあるのかもしれないです。

特にこども家庭庁に期待したいなと思うのは、今、生きているこどもたちの幸せを守るというところと、こどもを産みたい人が産める環境という、これからのところを取り組んでほしいなと、そこを期待したくて、こどもを産みたい人が産める環境であれば、経済的不安の解消というのが重要で、ここはいろいろな所得制限であったり、障害を持った児童・生徒にどこまでお金を出してちゃんと教育とかを受けられるようにするかというところもあると思うのです。

僕が今回、中心に話したいなと思うのは、今生きているこどもたちの命とか幸せを守るというところで、昨日か何か、文科省のところで児童・生徒の問題行動とか、不登校の生徒に関する調査の結果が発表されていたと思うのです。こどもの数は今減っている中で、小中学生の不登校は24万人で過去最多、中学生では20人に1人が不登校、これはコロナの影響もあると思うのです。別に不登校が悪いとは僕は全く思わなくて、学校に行きたくない子はそれぞれ理由があって、ただ、学校に行っても勉強はしたいとか、教育を受けたいという人はいると思うのです。

というので、教育をみんな等しく受けられるようにするというところで、不登校の生徒にもオンライン授業みたいなものを受けられるような体制をしっかりと整備してもらわないといけないなと思っていて、例えば不登校の生徒に対するオンライン授業などの配信であれば、青森市とかは授業の様子を撮影して、不登校の生徒に配信するというのをされていて、不登校になった生徒のうち、登校できるようになった生徒の割合が増えているという結果も出ているのです。こういう子だって学校に行っていなかったけれども、別に勉強したくないとか、そういう思いを持ったわけではなくて、教育は受けたいと思っていたから今は学校に通えるようになっていくわけです。

不登校の生徒の子にオンラインで教育を提供していくというのが大事で、今、提供できていても出席扱いにはならなかったりというのでいろいろ問題があって、僕は地方の政治とかにすごく興味があるのですけれども、自分の住んでいる市の人たちに話を聞く中で、出席扱いされないのをどうにかしてほしいであったり、学校によってオンライン授業の配信とかの対応が変わってくる、して

くれるところもあれば、してくれないところもあるというので、そこはお金の問題はいろいろあると思うのです。国が引っ張って進めてほしいなと思っていて、ただ、こういうのを進める中で、どんどんやらなあかんことを増やしていくと、学校の先生の負担がどんどん増えていくというのも、また新たな問題として出てくると思っています。

いろいろ社会が変わっていく中で、このコロナ禍で、例えば学校の先生がクラスでコロナの疑いのある生徒が出たりしたら、検査キットとかを先生が生徒のもとまで届けるというのをやっていたりして、自治体によってはそれに残業手当みたいな形で手当を出しているところはあるのですけれども、先生は別に検査キットを運ぶ人ではないし、専門は学校の教育で、今、だんだん部活動の地域移行とかを進めていかれると思うのですけれども、いろいろなところで学校の先生の負担を軽減していくことで、新しいオンライン授業の対応もできるようになったりとか、オンライン授業をするというので、さっきお話しされたような地方の教育の格差であったり、そういうところも解決できるところはあるかなと思って、そういうところを進めてほしいなと思っています。

以上です。

○西崎ファシリ（めぐちゃん）　ありがとうございます。

今、生きているこどもたち・若者の幸せを守るところで、そういえば、今日ずっと話をしていて、学校の話が出てこなかったなというのを、なかさんのことを聞いていて思いました。

そうしたら、つつみさん、お願いします。

○つつみさん　私は、これから3点ほど言わせていただこうと思います。

学校は社会の縮図と言われておりますが、学校は社会に進出していく若者を育てていく場だと思っています。でも、最近では、学校において自分の考えが言いにくくなってきているのではないかなと思っています。例えばですけれども、この考えを誰かに言ってしまったら誰かに嫌われてしまうかもしれない、そういう深いところまで考えてしまって、なかなか自分の考えを主張できないことがあると思うので、自己表現というのをもっと自由にしていということを理解してもらおう。自由に考えを述べられるような環境をつくっていくことが1つ目です。

2つ目が、誰しも得意分野があると思うのですけれども、得意分野を生かすような学校づくりをしてほしいなと思っています。私が小学生のときに、体育の授業は全員必須で同じ種目の実技を行うのですけれども、なかなかうまくいかず、泣き出してしまう子もいました。そういうような過程を通して心身を強くするという教育方針もあると思うのですけれども、今の教育方針から考えると、体育の実技を選択制にして、自分がもっと楽しいとか、そう思えるような

体づくりというのをしていくのがいいのかなと思っています。

お手元の資料を御参照ください。私の意見なのですが、こども意見箱というのを設置するといいなと思っていて、こども意見箱では、こどもたちの柔軟な発想というのを政治家さんたちにリアルに聞いてもらって、こどもまんなか社会の実現に生かしていこうということなのです。

江戸時代に目安箱というのがあったと思うのですが、これは徳川吉宗の享保の改革で実施したのですが、その当時、使用されていたのは、広く庶民の要求や不満などの投書を受けるために設けられており、諸役人の非行を正し、行政の厳正を図るのに役立ったということなのです。

現代ではどのように使っていくかということなのですが、現代はアプリが発達した時代なので、アプリを有効活用して、もっとあんな社会になればいいのになとか、もっとこういう日本にしてほしいという若者の意見をありのままに表現できるコミュニティをつくっていきたいと思っています。

僕の考えるアプリの内容なのですが、年代別に考えというのは移り変わっていくものなのです。例えば小学生、中学生、いわゆる思春期とか、大学生になって、いろいろな社会の見方というのを得たときと、そうでないときというのは考えにもばらつきがあると思うので、年代別に例えば小学校低学年、小学校高学年、中学生、高校生、大学生と分けて、それぞれの意見を細分化していくことが内容としてはいいのかなと思っています。

これについてなのですが、誰もが見ることができるオープン意見というのと、行政の担当者のみが見られるマイ意見というのを設けたらいいのではないかなと思っていて、オープン意見というのは自分の思った意見を誰もが見られるように設定して、同年代などの同じ考えを持っている人たちと共有して、例えば今のSNSだったらいいねとか、そういうのがあると思うのですが、そういうので上げていくというか、自分の意見を深めたり、そういうのをして強めていくものでありまして、マイ意見というのは、自分の意見を公表するのは恥ずかしかったり、自信があまりない人のために、自分の意見を送っていただいて、それに対して行政のいわゆる担当者の方がLINEのようなチャット形式で返して、どのようにやっていけばいいのかというのを共に考えていく、そういうのが大事だと思っています。

アプリ制作に関してなのですが、厚生労働省で制作されたCOCOを参考にとすると、COCOでは個人エンジニアを募集して無償でアプリ制作を行ってくれたのです。だから、こども意見箱でもそれを生かして、このアプリ制作を行ってくれる人を有志で募集いたしまして、それでベータ版といわれるデモンストラーションを実施していったら、実験結果がどんどん得られていったら、どういうアプリの内容にしていけばいいのかなというのを柔軟に変えていきながら世

の中に発信していく、そういう形にしていきたいと思っています。

私の意見は以上ですけれども、御静聴ありがとうございました。

○西崎ファシリ（めぐちゃん） 最後はプレゼンをつくっていただき、ありがとうございました。

こども意見箱のお話と、それから、学校の教育の場と2つ大きくあったと思います。こども意見箱は意見をどうやって伝えたらいいのだろうと、最初から出てきた意見を一つ体現化する提案として出てきてくれたという感じがしました。

では、せいこさん、お願いします。

○せいこさん 私は今29歳なので、本日最高齢の若者になるかと思います。今まで高校生の皆さんとか大学生の皆さんとか、あと、若い方のお話を聞いてとても圧倒されました。

私の話としては、自分の実体験に基づくものというところで、今、私は3歳半のこどもがいるのですけれども、子育てをしている身として、あと、私の職業は保健師なので、保健師としても、母子保健業務が厚生労働省からこども家庭庁のほうに移管されるということで、とても注目しています。

先ほど何かどなたかが未来が不透明で不確かだとおっしゃっていたと思うのですけれども、私もとてもそれを感じていて、こどもが育っていく未来が全然見通せないなというところで不安を感じています。今、私と夫もいるので共働きで頑張っているのですけれども、それが将来、ちゃんと本当に共働きで続けていけるのかとか、どこを見渡しても労働環境がかなり悪いなと思っていて、長時間労働が当たり前だったりとか、残業があったりとか、そういうところが本当に働きにくい部分があるなと思っています。

今、私は夫が在宅ワークになったりとかしているのですが、それで何とかしのげている部分があるところなのですけれども、保健師だと地域に出て行って、地域の皆さんの健康をエンパワーメントするお仕事なので、在宅には絶対ならないというところで、いつも出勤していつているのです。私はコロナの担当の部署に今おりますので、この夏、皆さんもとても大変だったのではないかなと思うのですけれども、この夏、私もすごく大変で、こどもがいるからというところでちょっと早く、定時に帰らせていただいたりとか、時差出勤をさせてもらって何とかやりくりしたりとかしているのですけれども、コロナだと土日に具合が悪くなる方ももちろんいらっしゃるの、土日出勤とかもあるのです。

去年までは土日出勤はしていなかったのですけれども、どうしてもというところで出勤したりしていて、でも、本当にそれが辛くて、9月の波が治まってきたときぐらいに、何かふとしたことで職場で、アラサーにもなって恥ずかしいのですけれども、涙がとまらなくなってしまうと、上司に相談して土日の業

務をストップさせていただいたりとかして、何とか仕事をしているという状況です。

最近、物価とかもどんどん上がってきて、今、毎日の食事とかも、おかずを届けてもらえるサービスとかを使っているのですが、それも来月から値上がりをしますとかとなっていて、この先、本当にこれで続けていけるのかなと不安を感じています。

最近、少子化の問題で産み控えとかという話があったりすると思うのですが、それで10万円のクーポンを配るとかというニュースが流れていたりしたのですが、私もこどもが3歳になったので2人目とか親から言われたりするのですが、正直、クーポンでは1ミリも心が動きませんでした。こどもの教育というところにちゃんとお金を投資して、もし私がこの業務でうつ病になったりとかして働けなくなってしまうたり、何らかの理由で1人親になってしまったりとかしても、こどもが安心して教育を受けられる環境を整備していただきたいなと思っています。

さっきも奨学金の話とかもあったと思うのですが、まだまだ給付型で返さなくてもいい奨学金とかも充実していないというところがあったり、自分は私大の看護学校を卒業したのですが、私のときで初年度200万ぐらいたしかかかっていたなと思って、今から考えると、かなり親に負担をさせていたなと思うのです。貧困家庭のこどもが、もし私と同じ進路を選ぼうと思っても、きっと難しかったりするだろうなと思いまして、そういうこどもたちの芽をつぶさないためにもちゃんと教育に投資していただきたいなと思います。

あと、市町村で働いていて、自分の住んでいるところと働いている市町村と違うのですが、市町村の横出しサービスは結構違うのだなということを感じたりして、今、明石市の取組とかが注目されているかなと思うのです。そのように全国どこでも所得とかに関係なく幅広く行政で支援をして、お金を投資していったほしいなと思っています。

以上です。

○西崎ファシリ（めぐちゃん）　ありがとうございます。

未来が見通せない不安のこととか、あとは全国どこでも同じように支援をしてほしいということなど、最初から最後まで出てきている話の中で、それを言語化していただいたなと思いました。

あとちょっとお時間があるので、もしよければ、今日9人全員に御意見をいただいたので、その中で、例えば誰かが話した意見とか、こういうことにもちょっと付け加えて話したいということがあれば、ぜひ時間いっぱいまで使いたいなと思います。

はるさん、お願いします。

○はるさん 自分が本当に言いたかったところというのが、まだちゃんと言えてなかったので、この機会にお話ししたいと思います。

自分は今、高校3年生の位置づけにいまして、勉強という観点でちょっとお話をしたいのですけれども、自分は3つほどこうしてほしいというのがあります。

1つ目が、自分の学力に合った勉強をしたい。

2つ目が、工業や医療、専門的なことをもう少し中学や高校などで知りたい。

3つ目が、デジタル化が進む今の世界で、勉強の内容を政府が出してくれたらいいのではないかな。

1つ目の自分の学力に見合った勉強をしたいというので、自分は英語が苦手なのですけれども、数学がすごく楽しくて、皆さんにも得意・不得意の教科があると思うのです。でも、学校だから一律にみんなが分かった上で進めないといけないという制度があるのはしょうがないと思うのですけれども、宿題なども統一しなくてもいいのではないかなと、自分は思いました。宿題などがみんな同じレベルだと、自分は数学が楽しい、もっと進めたいのに、これをやらなといけなくて、もっと先に進めないというのもあったり、逆に難しすぎて、これも分からない、この問題を解くのに物すごい時間かかってしまうみたいな、人によってもレベルがあると思うのです。学校ごとの俗に言う偏差値レベルで分けても、偏差値の中でも数学ができる人、英語ができる人などの差があると思うので、そこをどうにか、もっと考慮してあげられたらなと思うところが1つ目です。

2つ目なのですけれども、工業や医療、経済などの専門的な内容を中学校、高校から断片的に知りたいという意見です。自分は今、高専という学校に通っていて、土木系を専門に勉強しているのですけれども、中学から高専に入るときの思っていた土木と、いざ勉強してみようと思った土木は結構違うことがあったり、大学などの学部に進学しようとなったときに、思っていたのと何か違うなというのは誰でもあると思うのです。それをもう少し早く知れたら、多分、皆さんが勉強している物理とか生物とかになってくると思うのですけれども、もう少し詳しいところまで自分は知りたかったなと思っています。

自分の環境でいうと、自分は土木を専門にやっているので、地盤、土のことや水の構造のことなどを勉強しているのですけれども、皆さん、高校の数学で微分積分がありますよね、これを土や水の構造のつくりなどに実際に使うのです。使って計算するというのがあるのですけれども、高校生とかが勉強している微分積分というのは、微分積分を使うというのは分かるのですけれども、これをどう社会に使っているのかというのが実感がないと思うのです。ということで、もう少し詳しいというか、勉強を身の回りのものに置き換えて学べる

機会があったらなと思います。

あと、自分の知り合いなのですからけれども、中学で学校にちょっと来られなくなったり、高専で学校に来られなくなったりというのが、人間関係だったり勉強面だったりであると思うのです。先ほど話が合ったとおり、学校に行かなくても勉強したいという子はいるのです。それで、先ほど提案があったフォローのために動画を上げるというのはすばらしい意見だと思っていて、自分はこれを政府がやってくれたらいいのではないかなと思いました。

特に個人の先生だと、いざ録画しようと思ったら慣れていないではないですか。さっきも言った余計な手間とかも取られて大変で、しかも1人で全部フォローしようとなったら、とても大変で手が回らない。政府が一律に参考動画として全範囲をやってくれば、ほかの先生たちは被っている内容をやらなくて済むのではないかなと思いました。これが3つ目、政府がデジタル化を今進めているので、動画とかを参考資料として全部提示してくれば、ほかの先生たちの助けになるのではないかなと思いました。

以上3つです。ありがとうございます。

○西崎ファシリ（めぐちゃん） ありがとうございます。

たまちゃん、お願いします。

○たまちゃん 私は皆さんのお話を聞いていく中で、特に今の学校の生徒の評価の仕方についてすごく考えさせられました。今の教育の制度だったり、大学入試の制度を見ていると、いわゆるIQ、テストを行って、同じテストの点数で生徒がどれぐらいの点を取れるかというところで評価されていることが多いと思います。

先ほどつつみさんの話にもあったと思うのですが、誰しもそれぞれの得意分野があって、それは一律の勉強方法で測ることはできないのではないかなと思います。学校の担任の先生からEQという話について聞いたのですけれども、今後の社会でどんどん社会問題が増えていったりとか、情報社会になっていって、いろいろな情報が入っていく中で一番求められるのは単なる学力だけではなくて、自分の興味を持っていることをどう発信していくかだったり、自分がどういう方面から社会に貢献できるかというところを見つけていくことが最も教育において重要になってくるのではないかなと私は考えました。

少し私の話の中でも触れさせていただいたのですけれども、探求型学習などを取り入れていくことで、いじめだったり、カウンセラーの問題だったりもあったと思うのですけれども、そういったところに対して興味を持ってくれる子もいると思うし、過疎化だったりという社会問題に興味を持ってくれる子も増えるだろうし、さらにその教育を通して同じように比較されることによって、生徒に劣等感が生まれることもあると思うのですが、そういったことをなくし

て、自分の得意分野に取り組んでいくことで、自分はこんなことができるのだという自信を持つことにもつながるのではないかなと私は思いました。

なので、今後、皆さんの話も踏まえて考えたのですが、こども家庭庁の方にもそういった探求できるような活動を行っていただけたら、もっと子供たちの自主性だったり、幸せというか、そういうのが高まっていくのではないかなと思います。

以上です。

○西崎ファシリ（めぐちゃん）　ありがとうございます。

そうしたら、あと1人か2人、ういさん、いかがですか。

○ういさん　私は皆さんの話を聞いて、スクールカウンセラーの利用の話では、自分の秘密にしてほしいことが漏れてしまうとか、せっかく選択肢があってもつぶれてしまうのを防ぐために、地域格差の話もありましたけれども、全国どこでも同じ支援を受けられるように、まず、支援者の支援が必要だなと思いました。知識をしっかりと享受して、支援者の疲弊を防いだり、ちゃんと心身的にケアすることで、虐待を受けたこどもは自分から助けを求められない現状もあると思うのですけれども、そういう言語的な表現ではなくて、ノンバーバルな非言語的な表現を見落とさないような支援が必要だなと思いました。

また、社会人の貧困の話では転職という考えがあり、そういう転職についてなどの知識が知りたいみたいなお話があったと思うのですけれども、安定を望むのが今の一般的な考えかなと思ってしまっていて、価値観をもっと広げられるように、みんなが平等に受けられるという意味では、義務教育時からの価値観を広げられるようなお話の仕方、大人からこどもに多くの選択肢があるよと教えられたり、広げられたりすることが必要だなと思いました。

その上で、そうした選択肢を活用できるように、実際の体験等を含めて、例えば、こういう知識はここで使えるみたいに具体的に伝えていくことが必要だなと思いました。そういったことを持続的に情報提供し続けるという持続性についても必要なのかなと思いました。

○西崎ファシリ（めぐちゃん）　ありがとうございます。

最後にお一人、ぜひという方はいますか。

なかさん、お願いします。

○なかさん　今、このフォーラムでいろいろ皆さんが話された労働の問題であったり、金銭的な経済的な支援の話であったり、あと、学校の教育であったりという積み重ねの先に少子化対策というか、その積み重ねの先に少子化対策があると思いました。2019年に出生数が90万人を下回る見通しが出たときに、当時の安倍元総理が国難ともいえる状況で大変な時代と話されてから、今、2022年で、出生数が80万人を割ってしまうかもしれないとなっていて、少子化対策

はもう一刻の猶予もなく、僕はすごい危機感を持っていて、そのためにも、こども家庭庁には、それこそ司令塔的な役割で頑張ってもらいたいと思うし、その中で、お話のあったような意見箱とか、こどもの意見をしっかり聞いて、当事者目線での政策を期待したいなと思いました。

○西崎ファシリ（めぐちゃん）　ありがとうございます。

皆さん、本当に今日はいろいろな皆さんの意見をいただいて本当にありがとうございました。最後に、少子化対策という、なかさんから御意見をいただきましたけれども、それはこどもを増やそうというために何か施策をするのではなくて、今日、例えばこどもたちの興味があることを伸ばそうとか、大変なこどもたちの居場所をつくって、今、いるこどもたち一人一人の幸せの先にきっとそういう政策があるのだろうなということを皆さんの話を聞いていてすごく強く思いました。本当に今日はありがとうございました。

というところで、本当にまだまだたくさんお話を聞いていきたいなという気持ちはあるのですが、ここで意見交換は終わりにしたいと思います。話しきれなかったことがもしあれば、この後のアンケートに書いていただければ嬉しいです。

では、ゆみこさんにバトンを渡したいと思います。

○渡辺室長（由美子さん）　今日は皆さん一人一人のアイデア、本当に私も心に響きました。ありがとうございました。

それでは、これから大人の皆さんから一言ずついただきたいと思います。

まずは自見政務官、お願いします。

○自見内閣府大臣政務官（はなちゃん）　皆さん、こんばんは。自見はなこと申します。はなちゃんとぜひ呼んでください。

私は今日、本当に勉強になりました。今日の台詞の中で印象的だったのが、まどかさんのこどもが大人を信頼できる社会という言葉があったと思うのです。私はお話を聞いている中で、地域格差の話もあったり、スクールソーシャルワーカーの話もあったり、様々な具体的な事象を教えてください、その中で、皆さんの中にはすごく課題を解決する力もあるし、課題を解決したいという気持ちもあって、本当に現状を変えていく力がすごくみなぎっていると感じました。

私たちのこども家庭庁の目的は、こどもたちが生涯にわたって、若者も含みますけれども、幸せだと感じられる社会をつくるという、ウェルビーイングというのをすごく大事にしているのですが、そこを自分たちでつくっていくのだということを今日すごく感じられて、私は逆に、さっきまどかさんがおっしゃってくれたこどもが大人を信用できる社会とは、大人もこどもを信用する社会だろうと、すごいポジティブなメッセージをたくさんいただきました。

正直、不安もたくさんあるというお話もありましたけれども、私はすごく明るいものを今日感じたなと思って、現状大変なこともあっても、みんなと一緒にだったら何かを変えていけるという感覚をすごく強く持ちました。本当に素晴らしい時間をありがとうございました。

○渡辺室長（由美子さん）　ありがとうございました。

続いて、本田政務官、お願いします。

○本田厚生労働大臣政務官（あっちゃん）　本田と申します。顕子なのであっちゃんです。

私は今日、ここに参加させていただく前に、ぜひ皆様から聞かせていただきたいなと思っていたことがありました。それはどういう形で居場所というものを提供できたらいいいのか、それはリアルな場面であったり、仮想空間であっても、今求められているのが居場所ではないかと思っていたので、今日、この時間でたくさんの答えをいただいて、また、すごく短い言葉だけれども、心にすっと入る素晴らしい言葉を皆様からいただきました。また、この居場所を御一緒させていただけたことがすごく私も勉強になりました。いただいた言葉を私も少しでも社会に活かせるようになりたいと思いました。今日はありがとうございました。

○渡辺室長（由美子さん）　ありがとうございました。

伊藤政務官、お願いします。

○伊藤文部科学大臣政務官（たかえさん）　今日は本当にありがとうございました。私は今、文部科学大臣政務官という文部科学省で仕事をさせていただいて、今日も皆さんのお話の中にいっぱい出てきた学校とか教育、若いときだけではなくて生涯もですけれども、教育という分野を担当させてもらっています。

その中で、今日もいただいていたけれども、それぞれの本当に個々人に合った教育とか勉強とか、また、探求していく勉強だったり、そういうものをこれまでは学校で一律に提供して、ここでこんな勉強をするので、ここに来てくださいねというような本当に昔の学校だったと思うのですけれども、そうではない、学校以外のところで学びたいという人たちがたくさんいるというところも含めて、本当に変えていきたいという挑戦をし続けているところでもあります。

その中で、例えば今日も出てきていたオンライン、デジタルをどのように学校で使っていくとか、学校の先生が本当に大変な中で、クラブ活動もそうだし、先生の働き方を守ることで、先生が頑張って守ろうとしているこどもたちも支えていくという、そういうような挑戦もしながらなので、本当に今日いろいろな気づきを私自身もいただいたかなと思っています。

その中で、高等教育というところになれば、言っていただいた専門的な勉強だったり、また、奨学金の問題だったり、給付型奨学金の課題もいただきましたけれども、それをこれからさらに広げていこうということも今やっている最中ではあるのですけれども、まだまだ課題があるのだということも気づかせてもらいました。今日は本当にいい問題提起をいただいたと思っています。これからも本当に皆さんの意見をお聞きしながら、しっかりと仕事を頑張っていきたいと思っていますので、また、ぜひ御意見をいただければと思います。今日は本当にありがとうございました。

○渡辺室長（由美子さん） では、副大臣、お願いします。

○和田内閣府副大臣（わだっち） まあくんの下で、これからこども家庭庁をつくっていくわだっちです。

今日は皆さん、本当にありがとうございました。いろいろと予定がある中、遠くからわざわざ内閣府まで来てくれて、それで、思いのたけを話しかれなかったかもしれないのですけれども、話していただけて、その熱量をすごい感じましたし、皆さんがこれだけは言わなくてはという思いを持ってわざわざ来てくれたということも、すごいひしひしと感じました。これまでも当然、こども家庭庁を頑張ってつくろうと思っていましたけれども、今日、皆さんのお話を聞いて、より一層頑張ろうと思いましたので、これからしっかりと頑張っていきたいと思います。

いろいろお話があったのでたくさんしゃべりたいことがあるのですけれども、まず、教育の格差とか、あと、もっと早い段階でいろいろなことを知っていたかったとか、裁判のことをもっと早く知りたかったとか、お勉強していることとリアルな生活とのつながりというのがなかなか分かりづらかったというお話が今日あったと思います。

生きていくために勉強しているのであって、一番大事なことは、そういった知識を基に皆さんが充実した人生を送れるようになることだと思うのです。そのつながりを教育の中でどうしていったらいいのだろうかとか、あとは教育の中で、いろいろなリアルの体験ですよ、生活の中での体験を重ねていく、地域の格差なくそういった体験ができるようにする、デジタルとかも使いながら、皆さんがちゃんと1人の大人になっていけるように教育をするというのはすごい大事なだと、改めて痛感させられました。これは大事な課題の一つとして、僕も受け止めさせていただきました。

あと、居場所の問題です。るねさんからお話がありましたけれども、例えば家庭とか学校とかで居場所がなくなってしまったときに、その次に行けるところ、まどかさんからもお話がありましたけれども、別の道がある。そして、ちゃんとそういったところが準備をされているというのはとても大事なことだな

と思います。

実際、社会にはいろいろな可能性がありますし、いろいろな選択肢があるのだけれども、僕もこどもの頃、そういう選択肢があるのを知らなかったことが正直ありました。いろいろな可能性もあり、いろいろな場所にある、いろいろな道があるのだよということ早くこどもたちに知ってもらって、何か困ったときに、それで絶望しないようにする。大丈夫なのだよということを早い段階でちゃんと周知していくことも大事だなと思いました。

最後のなかさんの、これらの政策の先に少子化の解決があるというのは、もう本当にそのとおりだと思います。政府もいろいろとやっています。保育園を増やしたりとか、幼児教育の無償化をやったりとか、たくさんやっているのですけれども、ただ、少子化のほうに勝ってしまっているというのが今の状況です。だから、一個一個、今日教えてもらった課題を解決していくことしかないのだと思います。

こども意見箱、すばらしい提案でした。これはまさに皆さんが政治に参画することそのものだと思うのです。ですから、何か政治家の人がやってくれるのではないかと思わないでいただいて、今日、わざわざ皆さんはここに来ていただいたのですから、政治家をむしろ使って、また、政治家と一緒にあって、皆さんの未来と一緒につくっていく、切り開いていくというマインドで、ぜひ言っていただきたいし、意見表明をこども家庭庁にしていいただきたいと思います。今日はありがとうございました。

○渡辺室長（由美子さん）　ありがとうございました。

それでは、最後に締めを小倉大臣、お願いします。

○小倉大臣（まあくん）　皆さん、本当にはるばる遠いところから東京に来てくれた若い人たちも含めて長時間、どれも本当にすばらしいすてきな意見だったと思います。私も大変参考になりました。ありがとうございます。

今日出た教育のこと、子育てのこと、あるいはいじめや不登校、児童虐待といった様々な問題、我々も同じように問題意識を持っておりますし、何とか変えたいという強い思いを持っております。こども家庭庁に期待しかないと言ってくれましたけれども、引き続き期待してもらえようという頑張りしたいと思います。

この意見交換会で、将来に対する漠然とした不安ということが何回か出てきました。本当に残念だと思いますし、我々政治行政の責任だと思っております。我々は今日より明日がよくなる、例えば皆さん方が1年後、あるいは5年後、10年後の自分を思い描いたときに不安になるのではなくて、夢や希望を持ってわくわくするような日本にしたいと思っています。そのためのこども家庭庁だと思っておりますので、ぜひ引き続き意見を言ってもらいたいと思うのです。

今日の模様もYouTubeに配信をいたします。皆さんの積極的な意見や発言を聞いて、多分同世代の仲間も勇気を持って政治や行政に対して意見を言ってくれるようになるのではないかと思います。今日出た意見、そして、皆さん方が言い足りなかったと追加で言ってくれる意見、あるいは周りの仲間からさらに言ってくれる意見、全て最初に申し上げたように、こども大綱を策定する有識者の会議に報告をさせてもらって、私の責任でもって、しっかりと政府の政策に生かすようにしていきたいと思います。本当に今日はありがとうございました。

○渡辺室長（由美子さん）　ありがとうございました。

　　まだまだ名残惜しいですが、これで「こどもまんなかフォーラム」を終わります。どうもありがとうございました。